

日時：平成25年12月5日（木）11：00～11：25

場所：市役所第3会議室

出席者：市長、副市長、企画部長、民生部長、社会福祉課長

取材者：東海新報、毎日新聞、岩手日報、共同通信、産経新聞、岩手めんこいテレビ、
河北新報、朝日新聞

市長挨拶

皆様がたには、お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。また、日ごろ当市の情報発信等についてご協力をいただいておりますことに感謝申し上げます。

早いものでもう12月に入りました。第4回市議会定例会ということで明日から議会が開催されます。今日はその内容等について記者会見させていただきますのでよろしくお願いいたします。

(1)平成25年12月定例議会について

会期は12月6日から12月19日までの14日間です。

一般質問ですが、10名の議員さんから通告をいただいているところであります。

次に提出案件ですが、議案全体で20件を提案させていただく予定であります。

簡単に議案の内容についてご説明させていただきます。

議案第1号から議案第3号までの議案3件であります、これは、市道1路線の廃止、1路線の変更、2路線の認定をしようとするものです。（福伏8号線、市道松原線、福伏9号線、要谷11号線）

議案第4号は 三陸地方拠点都市地域推進協議会の廃止の協議に関し議決を求めることについてです。

これは、平成6年に当時の三陸地域の4市、5町、1村で設置した協議会を、当初の目的がおおむね達成されたことから、廃止しようとして提案するものです。

議案第5号は 岩手県市町村総合事務組合規約の一部変更の協議についてです。

これは、雫石・滝沢環境組合が滝沢・雫石環境組合に名称変更することに伴い、規約の一部を変更しようとして提案するものです。

議案第6号は 陸前高田市公共下水道高田ポンプ場及び陸前高田浄化センター災害復旧工事の変更委託協定締結についてです。

これは、平成24年に契約した委託費用について、実施単価、労務単価の変更に伴い、変更協定を締結しようとして提案するものです。

議案第7号は 陸前高田市被災市街地復興整備事業の変更業務委託契約締結についてです。これは、平成25年10月に契約した業務委託契約に、高田地区の事業区域の拡大と地下埋設物の撤去を追加しようとして提案するものです。

議案第8号及び第9号は 財産の取得についてです。

議案第8号は、岩手県が保有する小友浦干拓地の堤防用地（21,828㎡）を取得しようとして提案するものです。

議案第9号は、市立高田東中学校建設事業用地（11,981㎡）を取得しようとして提案するものです。

議案第10号は 財産の処分についてです。

これは、小友浦地区で岩手県が施工する海岸保全施設災害復旧事業用地（27,940㎡）として、財産を処分しようとして提案するものです。

議案第11号は あっせんの申立てについてであります。

これは、東京電力株式会社原子力発電所事故による損害賠償請求に係るあっせんの申立てをしようとして提案するものです。

議案第12号は 陸前高田市職員定数条例の一部を改正する条例についてです。

これは、東日本大震災による復旧復興事務を処理するため、職員数の増員が必要になることから、職員定数を240人から290人に改正しようとして提案するものです。

議案第13号は、陸前高田市市税条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例についてです。

これは、市税条例の改正に伴う一部改正です。

議案第14号 陸前高田市税外収入未納金等徴収条例等の一部を改正する条例、及び

議案第15号 陸前高田市公共下水道事業受益者負担に関する条例の一部を改正する条例であります。

これは、地方税法の改正により延滞金の利率が変更になったことに伴う改正です。

議案第16号は、平成25年度陸前高田市一般会計補正予算（第6号）であります。

今回の補正の内容ですが、東日本大震災の災害関連事業費及び人件費の減額補正等を計上しているところであり、歳入歳出予算の総額に、それぞれ256億225万2千円を追加し、総額を1,586億4,750万1千円とするものです。

主な事業は、堆積物処理プラントの解体やガレキ仮置き場の土壌改良のため災害等廃棄物処

理事業費として約240億円、広田地区のブロードバンド整備としての光ファイバー整備工事費として、約1億1千200万円、福祉灯油等支給事業費として798万円、奇跡の一本松の根の保存経費として約880万円などとなっています。

次に議案第17号から、議案第20号までは下水道事業特別会計から水道事業会計までの7特別会計の補正予算であります。説明は割愛させていただきます。

以上で議案の説明を終わります。

【質疑】

質問)

補正予算の中で、堆積物処理プラントの解体費用とありましたが、予定通り今年度で処理が終わる見通しでしょうか。

市長)

今回の12月議会で予算を計上していますが、今現在動いているプラントですから、実際に解体というのは来年度になるかと思っています。基本的に年度内に終わらせることができるものについては終わらせると、それ以降については、たとえば海からのガレキの引き出しもあると思いますから、県と協議をさせていただくことになっています。

質問)

職員定数ですが、240人から290人と約2割の増となるわけですけれども、派遣が足りないので増員するのか、どういった分野を増員するのか、新卒を50人増やしても即戦力にはならないと思いますが、見通しなどをお願いします。

市長)

私たちとすれば、来年度再来年度が復興の中で一番たいへんな時期となるであろうと見越しているところであります。

職員採用につきましては、4月1日採用の職員は新卒を中心ということになりますが、1月1日採用もこの間ずっとやっております。来年1月1日付けでも社会人というか様々な経験を持つ方々の採用を考えています。当然4月1日採用も考えています。

この定数については、条例で定めなくてはいけないので、枠を設定してその中で必要な人を確保していくということになります。

引き続き、他自治体からの派遣についてはお願いをしていかなければいけません。ただ、もう3年という時間が経とうとしておりますので、ここで増員するというのは非常に難しい状況になってきています。そういう意味でもプロパーの職員を確保していかななくてはならないということも併せて事由のひとつにはあると思っています。

質問)

一般会計の補正予算の説明の中で、一本松の根の保存というのがありましたが、補正予

算を使ってどのように保存活用するのかということと、1億5千万円を目標に募金活動をしてそれより多く集まったものを財源とするのかということをお教えください。

市長)

根の保存については、IBC まつりで現状のまま展示していただきました。一本松本体を加工したように根についてもしっかりと加工しなければいけないということで今回させていただきます。

一本松を移動させるわけにはいかないの、根を使いながら物販をしたり情報発信をしたり、いろいろと模索をしているところでございます。

財源ですが、以前から申し上げているように、一本松の保存募金をいただいている中から捻出します。募金額は12月1日現在で、1億7,216万3,466円となっております。

質問)

その予算を使って具体的に、たとえば市内のどこかで常設展示する等のお考えはないでしょうか。

市長)

実際に約1億5,000万円が保存にかかっていますので、残りが2千数百万円です。それで根の保存加工もしますし、あるいは一本松周辺の整備もやっていきたいと思っています。

将来的に根をどうするかということは市民のみなさんと相談しなければいけません、根は根として価値のあるものだとして認識しておりますので、有効活用していかなければいけないと思っております。

(2) 12～1月の行事予定について

日時	行事	会場	概要
12月8日(日)	平成25年度復興「剣豪千葉周作」顕彰少年剣道錬成大会	市立第一中学校体育館	8:30～
12月18日(水)	陸前高田市まちづくりプラットフォーム市長懇談会	再生の里ヤルキタウン	18:00～
12月19日(木)	衆議院東日本大震災復興特別委員会視察	高田西地区、道の駅高田松原等	11:30～ 12:40
12月23日(月)	防災メモリアル公園市民シンポジウム	4号棟第6会議室	13:00～

12月24日(火)	陸前高田市コミュニティホール建設工事地鎮祭並びに安全祈願祭	高田町字栃ヶ沢建設予定地内	11:00~
1月5日(日)	平成26年陸前高田市消防団出初式	市立第一中学校体育館	10:00~
1月6日(月)	平成26年新年交賀会	キャピタルホテル1000	10:30~
1月12日(日)	平成26年陸前高田市成人式	市立第一中学校体育館	10:00~

【質疑】

なし

(3) 平成25年度福祉灯油購入費等助成事業について

1 目的

高齢者世帯、障がい者世帯、ひとり親世帯、生活保護世帯及び特定疾患医療受給者世帯に対して、灯油購入費等の一部を助成することにより、冬期間における経済的負担の軽減を図り、もって生活の安定と福祉の増進を図ることを目的とする。

2 支給対象者

現年度の市民税が非課税の世帯であって、高齢者世帯、障がい者のいる世帯、要介護4又は5の認定を受けている者のいる世帯、18歳未満の児童がいる一人親世帯、生活保護受給世帯及び特定疾患医療費受給者のいる世帯等

【質疑】

質問)

地域商品券を交付する時期と申請の方法はどのようにするのか。

民生部長)

福祉灯油については県の補助もありますので、県でも補正予算を議会にあげています。その後正式に財源が確保できると思いますので、市の補正予算についても手続きを進めいきます。

年内の交付は難しいと思いますが、年明け早々にはやりたいと思っています。

質問)

対象の世帯に送られてくるものなのか、対象となる方が市役所等に出向いて交付を受け

るものなのでしょうか。

民生部長)

金券としての取り扱いになりますので、昨年と同じように各地区において申請していただいで交付する形にしたいと思っております。

(4) その他

質問)

震災の検証について、今度の定例会でも請願が上がっているということで、今、市の検証委員会でも検証をされているようですが、市職員に特化した検証などはどのように考えているのか伺いたい。

市長)

請願は議会に対するものなので、請願審査について我々が云々ということではありませんが、職員の方がたくさん犠牲になられているわけですから、これは検証しなければならないと思っております。

ただ現時点で、職員に特化したということではなく、久保田副市長を中心に検証委員会を立ち上げておりますので、その中でしっかりと検証すべきものだろうと思っております。

副市長)

請願については今市長がお話ししたとおりです。11月の月上旬に検証委員会を開かせていただきました。今後の検証の取りまとめの方針として追加調査をやることに決めたのですが、それに基づいて牛山先生等々と相談をさせていただいて、アンケート調査を近々全世帯を対象に配布するという方向で準備を進めております。

質問)

アンケート調査はいつ頃行うか決まっているのでしょうか。

副市長)

予定では来週にも配りたいということで年明け早々までに回答を受け付けて、その後分析して報告書に盛り込むという作業をやりたいと思っております。

質問)

今年最後の会見だと思いますが、今年一年がどのような年だったかというのと、今、新年度の予算の準備も始まっていると思いますが、来年は何か新しくチャレンジしようと考えていることがあればお聞かせください。

市長)

あっという間の一年でしたし、たいへん忙しい一年だったと思いますが、かなりいろいろな意味で目に見える形というのが出てきましたので、平成25年度は「本格復興年」というフレーズを使いながらやってきたわけですが、いよいよこれからだなと思いがあります。

来年度予算についてということですが、今の時点ではなかなか申し上げにくいところがあります。復興を急がなくてはいけないということが一番念頭にあります。

ただ、私ども行政があれやろうこれやろうというのではなくて、昨日も商工会青年部の

みなさんと話をしましたけれども、「僕たちはこういうことをやりたい」という声を上げていただくのが一番いいと思います。行政だけが主導してまちづくりをするということではいい結果は生まれませんので、やる気のある人たちの求めに行政も呼応していくという形が作れたらいいと思っております。

質問)

震災復興特別委員会が視察に来るようではありますが、委員会がほとんど開かれていない、もう 1000 日経って国の方は忘れていないかという危惧もある中でというのが一点。またもう一点は特定秘密保護法案についてどうお考えでしょうか。

市長)

復興の特別委員会が一回ぐらいしか開かれていないというのは新聞に出る前から非常に気にしていました。実際に知り合いの国会議員の先生方にもこれでいいのですかという話はしています。どうしても時間とともに力の入れ具合というのが、我々がこういう現状にある中であって国の方は動きが悪くなってきているなということは感じています。ですが、今回視察に来ていただけるということですから、現状をしっかりと見ていただいて、まだまだたくさんの課題があるということを再認識していただく必要がありますし、またそういういい機会であると思っております。

特定秘密保護法案については私から言及するものではないと思いますが、ただ大勢の人たちが懸念をしているということについては、市長としてというよりは一人の国民として、もう少し丁寧な議論が必要なのではないかと第三者的な意見とすればそのように考えています。

質問)

先日区画整理の事業計画説明会がありましたが、これで陸前高田全体の細かい計画が出揃ったのかなと思うのですが、市長が想定された人口規模は震災前と比べてどの程度のものになりそうでしょうか。

市長)

区画整理事業については、予算、あるいは事業を認定していただくために国とのやり取りが当然あるわけです。その中で、我々が「これだけの面積をやりたい」と言っても、国では「空地ができるだろう」という話になるわけで、実数を拾いながら計画を見直しているところです。

たとえば気仙町今泉の高台 1 と 8 を計画から削除したように実数で見直していますので、実態と出来上がったまちが大きく規模が違うということは基本的には考えておりません。実態に合ったまちづくりになっていくと思っております。